

国語科学習指導案

平成30年9月12日(水) 第3校時 1年B組

授業学級 1年B組(41名)

授業者

指導教諭

1 単元名 「大人になれなかった弟たちに…」

2 主眼

筆者が最も力を入れた一文は何か考える場面で、「誰に」「何を」伝えたい一文なのか、本文や原作の絵本をもとに考えることを通して、筆者の伝えたい思いについて自分の意見を持ち、「幸せ」とは何かについて深めることができる。

3 本時の位置 (全5時間中 第5時)

前時: 筆者はどちらの場面をより強調したかったのか考える。

次時: —

4 本時の評価規準

・筆者の伝えたい思いについて自分の意見を持ち、「幸せ」とは何かについて深めている。

5 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応 (太字はキーワード)	◆学習内容 ◇教師の指導・援助	時間	備考
導入	1 学習問題を確認し、学習課題を設定する。	ア 前回、鍵括弧や「と」の後の言葉に注目して考えたことで、筆者がわざわざ他のセリフと書き方を変えていることが分かった。 イ 他の場面など、本文全体ではどうだろう。 ウ 一文を選ぶときに、誰に何を筆者は伝えたのか考えていけば良さそうだな。	◇前回まで、2つの場面を前後の文や台詞に注目して考えたことをおさえ、次は作品全体に目を向け学習問題をたてる。 ◇どのように考えれば決められるか問い、学習課題をたてる。	5分	フラッシュカード
	2 個人追究をする。	エ 私は「ヒロユキは幸せだった。」だと思う。今までずっと扱ってきたし、戦争教材の中で「幸せ」という言葉は特徴的だから。 オ 私は「僕はひもじかったことと、弟の死は一生忘れません。」だと思う。筆者が最も言いたいことは最後の一文に書かれるし、ひもじさも弟の死も重要な場面だから。 カ 私は「母が、大きくなって…」の一文を選んだけど、他の文を選んだ人もたくさんいるんだ。理由を聞いてみたい。	◇ワークシートを配付し、個人で一文を決め、抜き出してその理由を書くよう促す。 ◇周りとの意見を交流し合い、その中で意見が変わった場合は元の考えを消さずに残して書き加えるよう指示する。 ◇黒板に掲示した本文に、自分の選んだ一文の部分にシールを貼るよう促す。	10分	ワークシート
展開	3 全体で意見を出し合い、自分の考えをまとめる。	キ 友の意見を聞いて自分の意見が変わった。 ク 「ヒロユキは幸せだった。」は、ヒロユキと同じように亡くなってしまった弟たちに、幸せと言い聞かせ伝えようとした一文だ。 ケ 「僕はひもじかったことと…」は、絵本にあったように、母に、自分の意志や家族への思いを伝えようとしている一文だと思う。 コ 絵本には「母にー」と書いてあり、題名は「弟たちに…」だ。この「ー」「…」に入る言葉が、筆者の伝えたいことだと思う。 サ 「幸せ」とは、家族がお互いに思い合って生きていくことだと思う。ただ生きるだけでなく、そこに愛情があつてこそ「幸せ」だ。	◇全体で意見を出し合う。 ◇その決めた一文は「誰に」「何を」伝えたいものなのか問い、周りと話し合うよう促す。 ◇原作の絵本にある表現を共有し、今の自分の考えを書くよう促す。 ◇意見を周りで共有し合い、「誰に」「何を」伝えたいかについてさらに深めていく。 ◇単元でやってきたことを振り返り、「幸せ」とは何かについて考えを書くよう促す。	25分	模造紙 シール 絵本 書画 カメラ
	4 本時を振り返る。	シ 「大人になれなかった弟たちに…」は戦争の物語だが、その中で「幸せ」について考えを深めることができた。	◇単元を通して学んだことを含めて、この授業での振り返りを書くように促す。	5分	

6 反省